

しおんだより VOL.56



当院では学生実習の受け入れを行っています。

当院は質の高い医療を提供していくことで、「地域の方々に思温病院があるから安心・安全とと思っていただく」ことを理念としています。医師、看護師をはじめ、多くの医療専門職が、それぞれの専門性を活かしながら連携して、一人一人の患者さんに回復していただくことを目標に日々活動をしています。

将来、理学療法士を目指す学生さんが、2ヶ月に亘り病院内で色々と学んでいます。

その一方で、将来、医療の現場で働きたいということで学んでいる学生の実習も積極的に受け入れています。現在は、栄養科とリハビリテーション科、過去には薬剤科でも学生さんを受け入れ、学校で学んだ知識や技能が、どんな風に現場で必要になっているのか、また自分は将来どのような役割を期待されるのかということを実体験しながら学んでいただいています。

患者さんの治療の現場で見聞きしたり体験したりすることと、大学で学ぶことの間にはギャップがありますが、それを実感することで、将来に向けての勉強の意欲が湧くものです。また「教えることは最高の学び」ですので、当院のスタッフにとっても自分の知識等を見直したり、より良い関わりを考え直すいいきっかけになっていると思います。

今は学生ですが、将来の医療の現場を支えるのは、若い彼ら、彼女たちです。学生実習の方がご担当させていただくことがあれば、是非、やさしく、温かく見守っていただければと思います。

岩西雄大薬局長が着任いたしました！

当院は、ケアミックスと呼ばれる病棟構成で、急性期の他に、地域包括ケア病棟、医療療養型病棟があります。医師の主たる仕事は、診断と救命だと考えていますが、当院では、診断がすでについている患者さんに、いかに、適切な薬物治療を行うが重要で、医師と薬剤師の有機的な連携が必要だと考え、実践してきました。

また、在宅で療養されている方が、体調を崩されたりケガをされたりして入院にいたるということは良くあります。入院前にどんな薬をのんでいたのかというのは、入院中の薬物治療を考える上では重要ですし、退院時にも、入院中の薬物治療の内容や今後の見込みを、町の薬局に伝えることはシームレスな医療連携には不可欠です。岩西先生には、工学博士でもあり、医療ICTにも詳しいので、当院が取り組んできた医療DXも加速させていただきたいと願っています。これからの思温病院薬剤部にも是非ご期待下さい。



岩西先生は、大阪国際がんセンター・大阪母子保健医療センター等に勤務されていました。そちらでの経験も、当院で活かしていただきたいと思います。

大阪・関西万博に行ってきました

4月から夢洲で始まった大阪・関西万博。すでに行かれたと言う方も多いのではないかと思います。私も、バタバタしている毎日ですが、6月5日、万博の診療所での勤務当番があたったため会場に行って参りました。勤務は、朝8時半からということで、会場には少し早めの7:50ごろ着いたのですが、行きの地下鉄から、それなりの混雑で、駅に着くともうすでに多くの方がいらっしやいました。東ゲートもすでに沢山の方が並んでいました。

万博には3つの診療所の他、複数の応急手当所があり、来場者の方で体調を崩された時には、看護や治療が行えるようになっています。当日は、最高気温が28度程度で、風もさわやかだったので、熱中症の方はいらっしやらず、パビリオンで食べた食事アレルギーが出た方がお越しになったぐらいで、おおむね落ち着いた勤務になりました。

終了後、会場内を回りましたが、とても面白かったです。地下鉄ですぐ行けるという便利さなので、また行ってみようかなという気持ちになりました。（文責：狭間研至）



診療所勤務終了後の短時間でしたが、一人で会場内をうろうろしましたが、海外の方も多くお祭り感があって、十分楽しめました。

しおんだより 第56号 発行日：令和7年6月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp